

第5次中期経営計画

(2023年3月期～2025年3月期)

株式会社 **アール・エス・物流**

(東証プライム 9055)

2022年5月11日

代表取締役
社長執行役員 臼居 賢

1. 第4次中期計画の振り返り

2. 第5次中期計画

(1) 電子部品関連

(電子部品物流/商品販売)

(2) 消費物流

(3) サステナビリティ関連課題

進化する「最適物流」をより多くのお客様に

GTB (Get the Business) 市場と商品の拡大

- 中国/兆普電子買収、インド/合併で2社目進出
- 顧客アカウント数6,900(25%増) 車載比率30%へ
- 消費物流はメディカル分野開拓で売上増

GTP (Get the Profit) 間・直の生産性向上

- 自動化設備導入進展 (外部購入、自社開発)
- TIE技術者養成(26名)、改善は年間1万件超に
- システムアップグレード、機能強化(WMS・輸出入等)

GTC (Get the Confidence) 選ばれる会社

- 東証1部指定～プライム市場、ガバナンス体制強化
- 不良率：21/下期に3.66ppmへ回復(電子部品関連)
- コロナ下、安定オペレーションで各社SCMに寄与

売上高は未達だが、営業利益率、ROEは当初の中計を達成

【電子部品関連】

コロナや半導体不足の影響を受けたが、着実な拡販活動と生産性向上、コスト削減。輸出入関連は海上・航空輸送逼迫に伴い当社売上は増加。

【消費物流】

コロナによる宅配需要の増加、新規にメディカル分野への拡販により売上・営業利益は増加。

(単位:億円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2022/3期計画	
	実績	実績	実績	(2019年5月時点)	(2020年6月見直し)
売上高	1,007	1,005	1,138	1,200	1,010
営業利益率	4.1%	4.7%	5.3%	5%確保	4%以上確保
ROE	5.2%	6.1%	7.0%	6.0%	5.0%

1. 第4次中期計画の振り返り

2. 第5次中期計画（2022年度～2024年度）

(1) 電子部品関連

（電子部品物流/商品販売）

(2) 消費物流

(3) サステナビリティ関連課題

地球と社会にやさしく・最適物流の追求と進化

GTB (Get the Business)
市場と商品の拡大

- ① ビジネス領域の拡大
- ② グローバルネットワークの充実
- ③ 協創・提携体制の拡充

GTP (Get the Profit)
間・直の生産性向上

- ① 省人化・自動化の推進
- ② 戦略投資の拡大と確実な刈り取り
- ③ DXへチャレンジ

GTC (Get the Confidence)
サステナビリティ

- ① ESG対応の強化
- ② 安全・高品質の維持確保
- ③ 非財務資本の維持・強化

ROE7%以上確保を目指す

- ・売上高：5次中計の3カ年で23%増
- ・営業利益：過去最高益を更新

【電子部品関連】

- ・既存領域での拡販に加え、ビジネス領域拡大（エリア/顧客/サービス）
- ・自働化、IT化推進により省人化、省エネ、生産性向上を図る

【消費物流】

- ・EC物流をエンジンにB to B 物流拡販。新規生協への拡販

(単位:億円)	2022/3期実績	2023/3期見通し	2025/3期
売上高	1,138	1,150	1,400
電子部品関連	864	870	1,075
消費物流	272	280	325
営業利益率	5.3%	5.1%	5.3%以上確保 (最高益更新)
ROE	7.0%	6.0%以上	7.0%以上

1. 第4次中期計画の振り返り

2. 第5次中期計画

(1) 電子部品関連

(電子部品物流/商品販売)

(2) 消費物流

(3) サステナビリティ関連課題



電子部品物流のプラットフォームを基軸にさらに拡大

電子部品物流のプラットフォーム 共同保管+共同集配 国内1,900社 7,500カ所の実績



- 顧客ごとの最適物流
- Global One Channel Service
- 高い物流品質

+

- 更なるネットワーク拡大
- デジタル化・自動化
- 包装の最適化と輸送モード

エリアの拡大

- 国内：主力拠点増強+西日本・九州
- 海外：既存エリア強化(北米・印・東欧他)
+新規 (フィリピン・インドネシア)

顧客・市場の拡大

- 車載・産機関連 (車載比率30⇒35%へ)
- 非日系顧客開拓の推進
- 輸出入サービス充実/顧客範囲拡大
- 新規市場 (流通サービスとともに検討)

サービスの拡充

- 車載・産業機器向けメニュー多様化
- 流通加工の拡大
- 環境負荷情報の提供
- SCMサポートメニュー拡大
- 倉庫立上げLT短縮

貨物特性に合わせた機器・システムの横展開と開発

【導入事例】

● 自動ラベル貼付機 (自社開発)



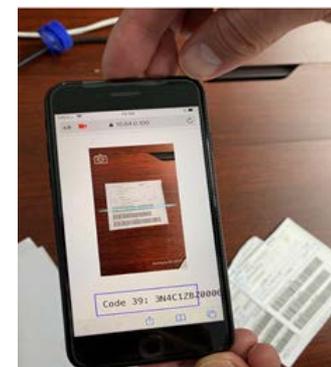
● カートン入出庫搬送機



● 可動式高層ラック



● 画像認識入庫検収システム (特許出願中)



主要拠点の保管能力の拡大

● 横浜に新倉庫を建築

2021年11月着工

2022年9月竣工予定

倉庫面積：9,000㎡

神奈川県横浜市（横浜営業所敷地内）

ベストな条件が揃った日は100%太陽光

発電で運営可能



横浜新倉庫 完成予想図

● 名古屋に新倉庫を建築

2023年2月着工予定

2024年1月竣工予定

倉庫面積：33,000㎡

愛知県小牧市



名古屋新倉庫 完成予想図

● 埼玉県・加須 2期倉庫の検討

● 営業所・デポ等

各国におけるロジスティクス事業の強化

欧州

- 車載向け物流効率化のための拠点網の再編
- ハンガリー中心に東欧拡販へ、代理店協業

北米

- 米国車載拡販のためのスペース拡充
- 米西海岸拡販のためナショナル営業力強化
- 米墨越境輸送ルート拡充
- メキシコ協業に向け新拠点開設

中国

- 内需拡大見据え、内貨倉庫拡充
- 非居住者Biz需要増に向け、保税倉庫を拡張
- 幹線輸送網と拠点輸配送の競争力強化のため
自社便を増加

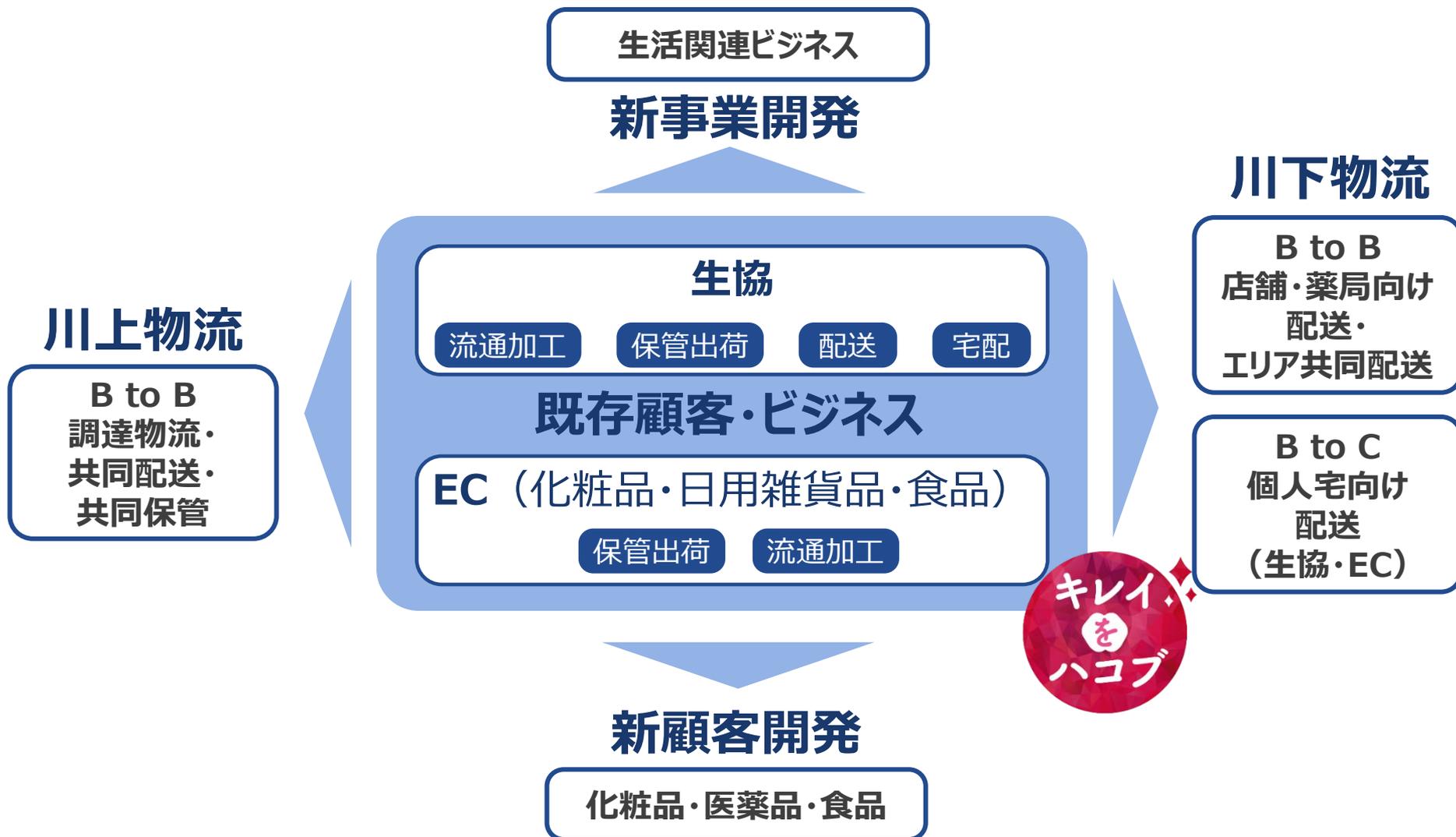
アジア

- タイ：電子部品用の高品質倉庫を拡張
- ベトナム・マレーシア：保税倉庫拡張
- インド：国内拠点展開と幹線輸送網整備
- 航空輸出事業強化のための自営化推進

1. 第4次中期計画の振り返り
2. 第5次中期計画
 - (1) 電子部品関連
(電子部品物流/商品販売)
 - (2) 消費物流**
 - (3) サステナビリティ関連課題



共同物流をエンジンにB to B 物流拡販へ



ロボットマテハンにより省力化・時間短縮

●ピッキング用ロボットカート

- ① 最適ルートでの走行で作業時間短縮
- ② 少人数、低負荷で作業可能に

●AGV x ソーター

- ① 作業時間短縮により品質・温度を維持
- ② 物量増に対応

*AGV: Automatic Guided Vehicle (無人搬送車)

ヴァーチャルシミュレーションを活用

●物流ラボ施設「KISAI BASE」を (株)椿本マシナリーと共同で開設

- ① マテハンの導入シミュレーションが可能に
(MR・VRを活用)
- ② アイデア創出や商品開発の共創拠点に



2021年10月 開所式

1. 第4次中期計画の振り返り
2. 第5次中期計画
 - (1) 電子部品関連
(電子部品物流/商品販売)
 - (2) 消費物流
 - (3) **サステナビリティ関連課題**

優先課題（社会課題と成長のための課題）マトリクス

物流企業として取り組むべき社会課題

優先度：
非常に高い

S 人権尊重	S 就労と個人の成長機会	G コンプライアンス	E 環境負荷軽減の取り組み	S 最適物流の提供
S 地域貢献活動	S 従業員の働き甲斐	E 安全と高品質	S インクルージョン & ダイバシティ	G ステークホルダーからの信頼
	E サステナビリティ推進体制	E 自動化と生産性向上	G リスクマネジメント	G ガバナンスの強化
	G 独立性の担保	E DXへのチャレンジ	S 人的資本の充実	E CSV活動の推進
		G 財務・資本政策	G 知的財産の拡大	B ビジネス領域の拡大
			G 取引先とのパートナーシップ	B グローバルネットワークの拡充
			G Kaizen2.0	G 株式市場における評価

E Environment
S Social
G Governance
B Business

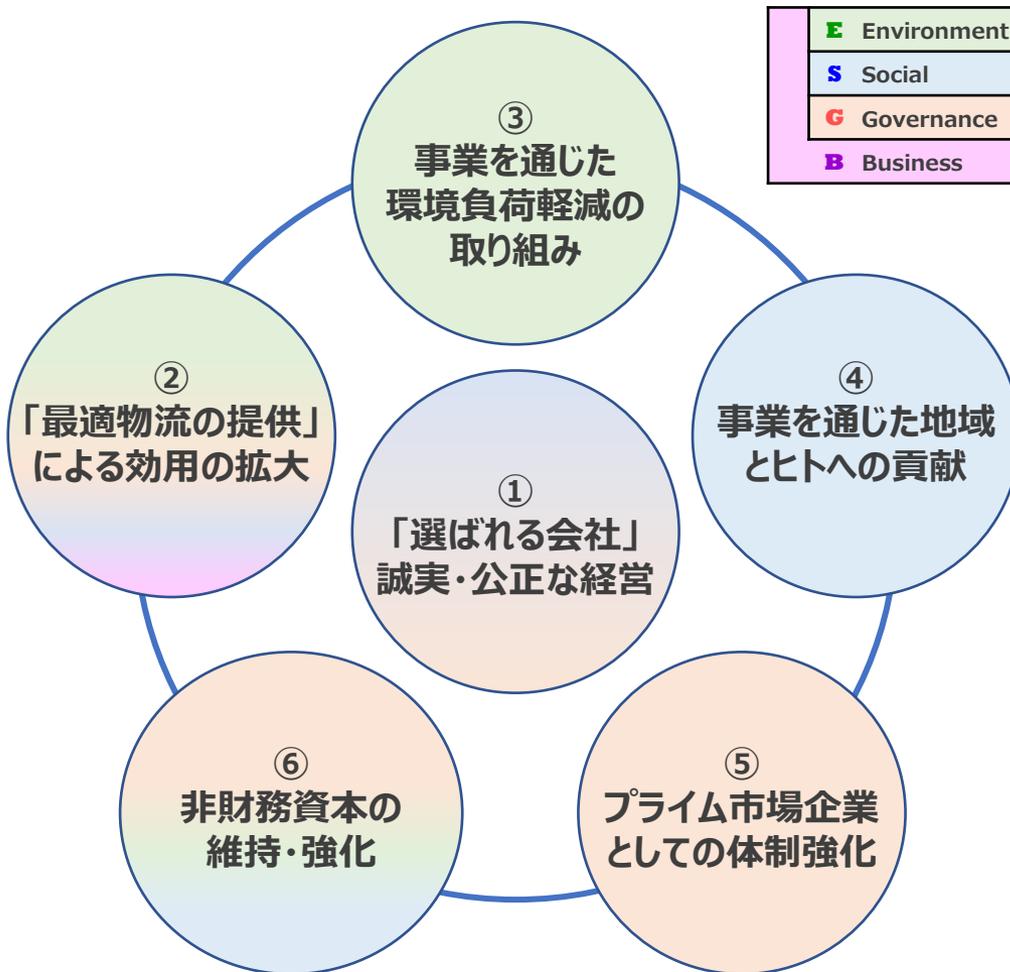
優先度：
高い

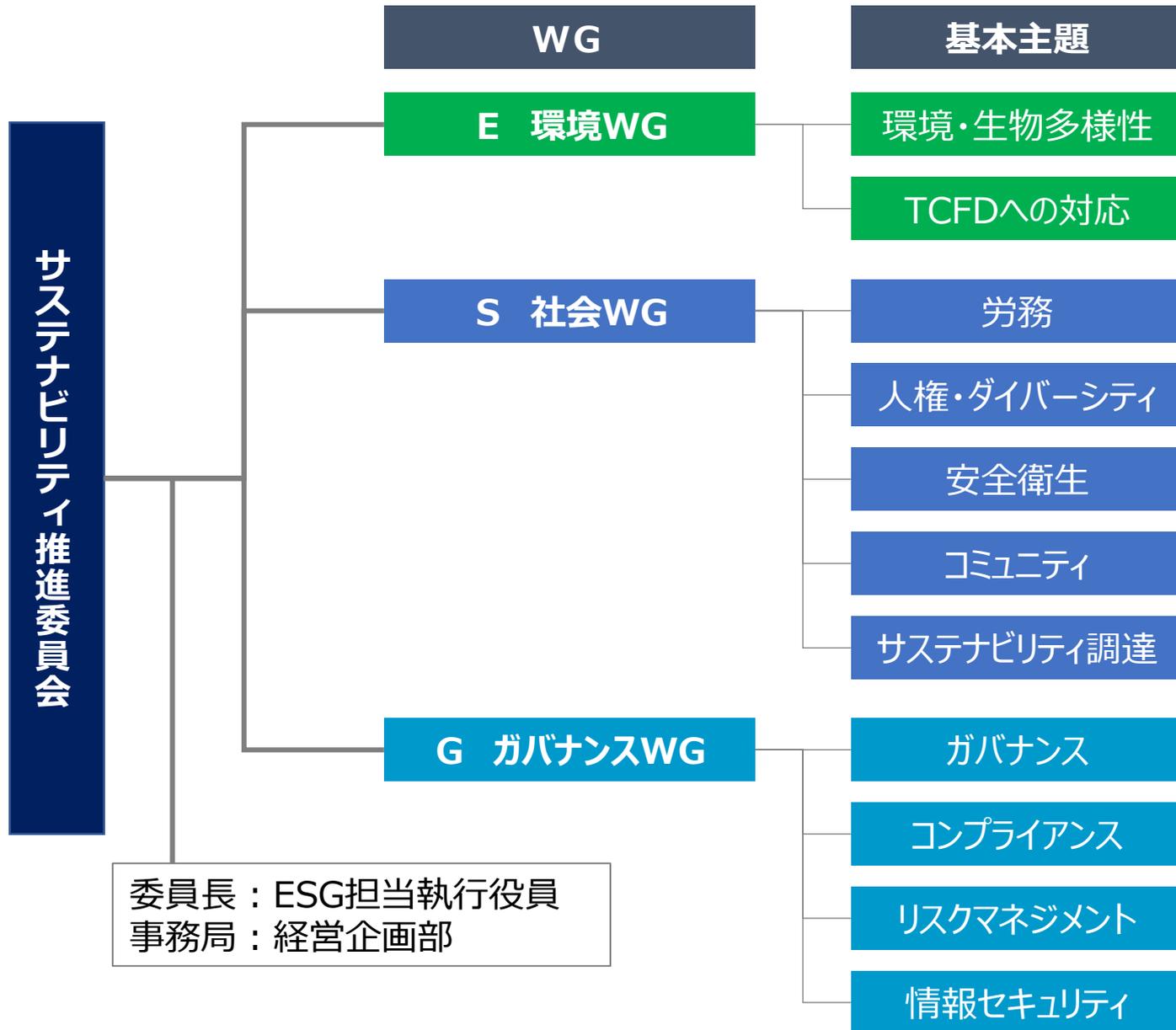
成長のための課題（非対応のリスク）

優先度：
非常に高い

当社の優先課題 6つの大項目

大項目	分野と課題
① 「選ばれる会社」 誠実・公正な経営	S 人権尊重
	G コンプライアンス
	G ステークホルダーからの信頼
② 「最適物流の提供」 による効用の拡大	E DXへのチャレンジ
	E 安全と高品質
	E 自動化と生産性向上
	S 最適物流の提供
	G 取引先とのパートナーシップ
	B グローバルネットワークの拡充
B ビジネス領域の拡大	
③ 事業を通じた 環境負荷軽減の 取り組み	E 環境負荷軽減の取り組み
	E CSV活動の推進
	E サステナビリティ推進体制
④ 事業を通じた地域 とヒトへの貢献	S 地域貢献活動
	S 就労と個人の成長機会
	S インクルージョン&ダイバシティ
	S 従業員の働き甲斐
⑤ プライム市場企業 としての体制強化	G リスクマネジメント
	G ガバナンスの強化
	G 財務・資本政策
	G 独立性の担保
	G 株式市場における評価
⑥ 非財務資本の 維持・強化	G/E Kaizen2.0
	S 人的資本の充実
	G 知的財産の拡大





E 環境

CO2排出量削減に向け、事業を通じて貢献

- 共同保管・共同集配の拡充
- 環境適合車の導入
- 梱包設計の変更提案による積載効率向上
- 省力化、省電力化のマテハン機器の研究、導入
- バイオ原料使用パレットの導入



環境データ

(原単位の削減率)	2020/3期 実績	2021/3期 実績	2022/3期 実績	2025/3期 目標
CO2排出量 (2014/3期比)	△13.8%	△13.2%	△14.6%	△20.7%
電力使用量 (2016/3期比)	△4.7%	△7.3%	△7.2%	△13.1%

集計対象：アルプス物流（単独）

S 社会

- **インクルージョン&ダイバーシティ：特に女性活躍推進**
- **従業員の働き甲斐：従業員満足度の向上、健康経営**
多様な勤務形態・制度の改善、ワークライフバランスの促進、
キャリア形成支援など
- **就労と個人の成長機会：人財の確保・育成**
研修の充実、資格取得・自己啓発の促進など

G ガバナンス

ガバナンス向上のため、独立社外取締役を過半数へ

- **アルプスアルパイン(株)の連結子会社から持分法適用会社へ異動**
従来実質支配力基準により連結子会社であった。
同社の当社株式持分は間接所有含め49%で変更なし。
- **同社との事業における関係に変化なし。**
今後もグループ企業として連携維持、企業価値向上に取り組む

ご注意：

本資料に記載された業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想であり、不確実な要素を含んでいます。

実際の業績等は、業況の変化等により、記載されている予想数値と異なる場合があります。

また、本資料は会計監査対象外となっています。